

60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90



目錄

和漢船用集卷第十二

大工道具之部

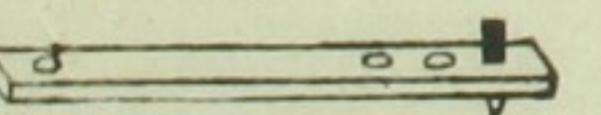


和漢船用集卷

工匠之具

金澤兼光編集

規
字彙曰為員之法合類節用條貫とキリ
和名不無末波之



渾發

ナシハツ

南蠻鐵

テツ

と以て作り有丸きとゑく放々

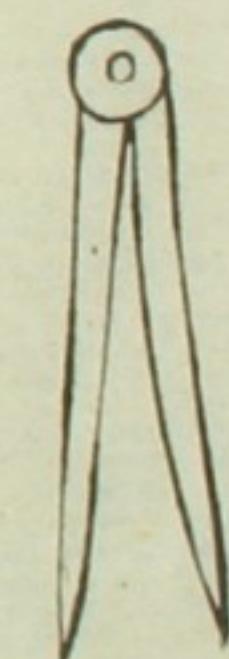
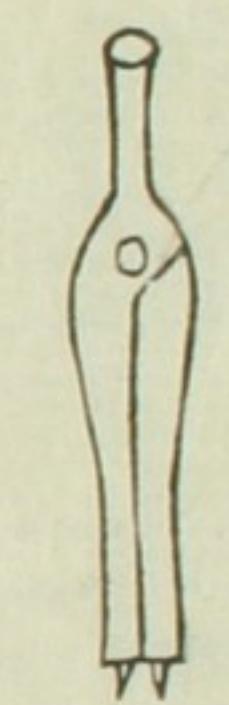
渾發すと云划分

ジリワ

回一也又工匠模と謂て

化り模様とも云計と極く用圖法をみそのも

小弓尺方と割よ用



矩

說文曰字从矢互象手持之形為方之器也
又合類節用勾尺和名抄曲尺和名麻可利加祢
今弓尺稱大中小あり

大弓尺八寸幅六步

中弓尺七寸幅五步

小弓尺六寸幅四步

又弓尺五寸幅四步

或曰有竹尺故称之曰加祢即木匠營造尺也

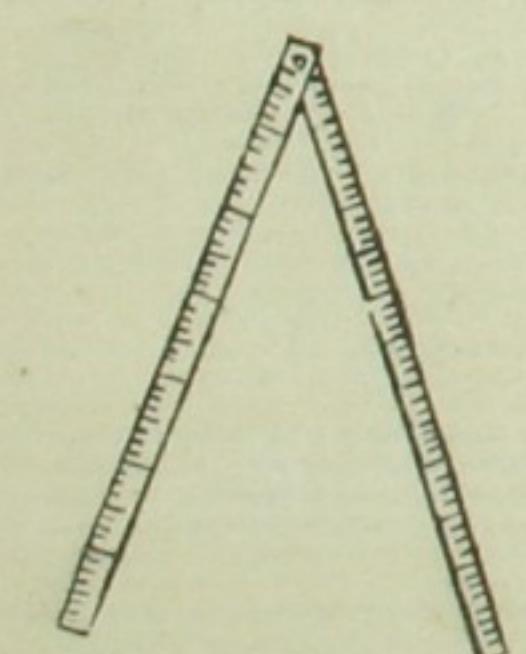
歷代尺有數品今所用者太明所改製也以鋼
鐵作之能撓能伸也生鐵者不可

裏尺

曲尺之裏尺也其一尺當表一尺四寸一分
四釐余分以知桶之度定法也蓋出於勾
股弦法といつて舟法作柂法用之

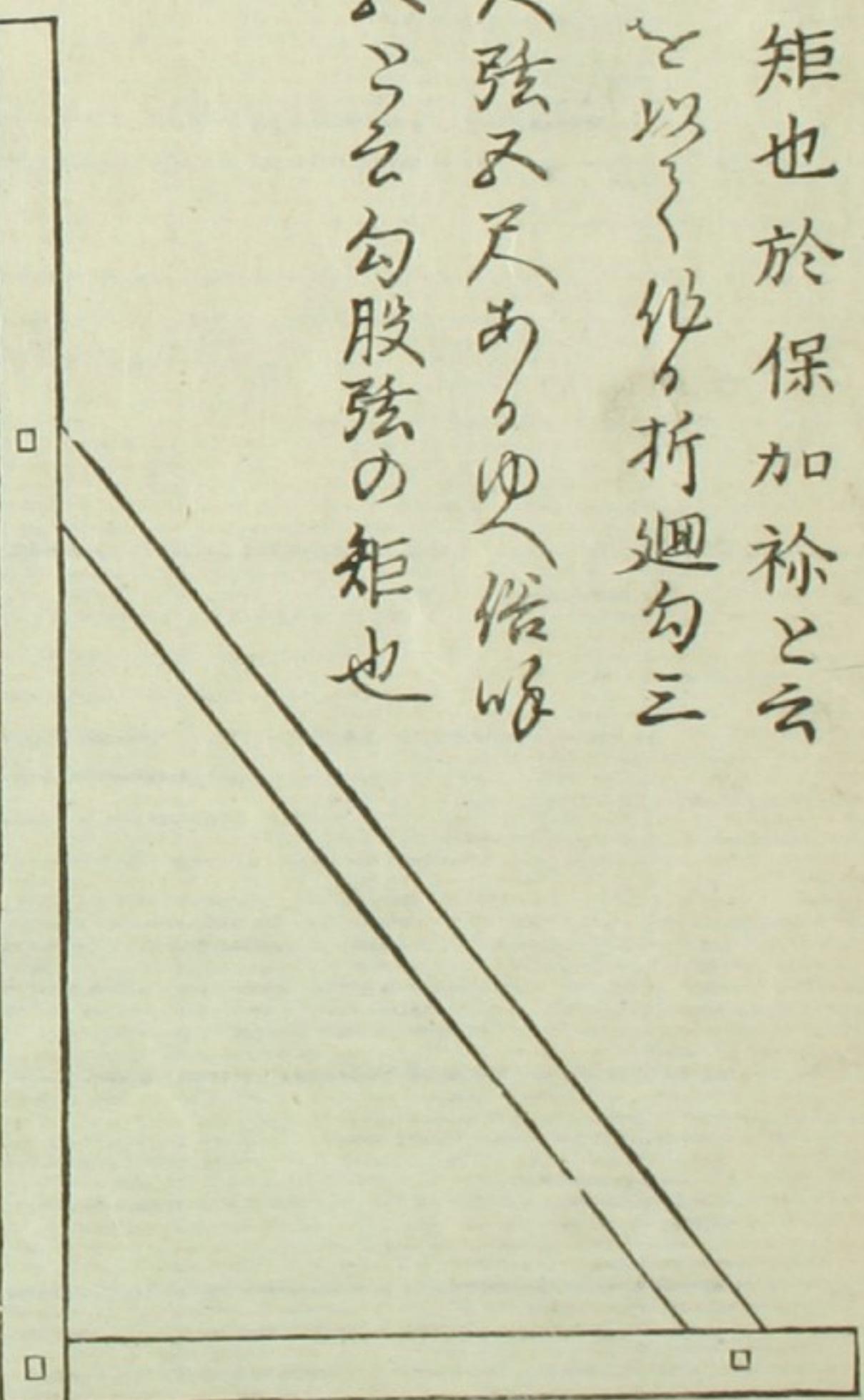
自由曲尺

船法用ことをぬく
もる者也



大曲尺 大矩也於保加祿と云
木と以て作り折迴勾三

尺股四尺弦又尺ありゆ候故
てニ定ムラモ勾股弦の矩也



尺有古今之異

尺度名也 擡衡度量皆本諸黃鐘也

縱黍尺 一名宋尺 黃帝命伶倫始造律之尺也 選中式之

矩黍一黍之縱長為一分其九分為一寸十九寸為黃

橫黍尺 一名夏尺 舜同律度量衡之尺至夏后氏而未

改名夏尺選中式之矩黍一黍之橫廣為一分

十分為一寸十寸共計百分是為一尺 此亦當曲尺之八寸

雖製異其律乃不異

商尺 一名唐尺 以黃鐘之長均作四段加出一段而

為二尺適當夏尺十二寸五分而用此尺故名唐尺 此乃當今名唐尺之曲尺也

周尺 以黃鐘之長均作五段減去一段而為一尺

適當夏尺之八寸 當曲尺六寸四分以此可製神主

漢尺 以黃鐘之長均作九寸外加一寸為一尺

太明制三種尺

鈔カ尺 裁衣尺三尺是夏四尺一尺六分

銅尺 量地尺此鈔尺短四分

曲尺 營造尺此鈔尺短六分

此即合唐尺

玉尺 林紹周通書正宗曰玉尺式四寸載財病離義
官劫害本八字以一字分寸合成玉尺一尺
以兩個四寸即一尺也八字吉凶各有詩訣畧文
或曰今俗謂之劍尺吉凶如文字且添八卦文字
蓋今多所用者稍異以曲尺一尺二寸為八段每
一段當一寸五分各照八字以本字代吉字

玉尺

俗曰劍尺

敗病離義宦劫害本敗病離義宦劫害本

敗病離義宦劫害吉

準ミツモリ

水平水積並又同和名義互波加利字彙曰

準平也以水所以取平也武備志曰水平者
木槽長二尺四寸兩頭及中間鑿為三池池橫
闊一寸八分縱闊一寸三分深一寸三分池間

宋漢朝詩集
卷之二

卷之三

相去一尺五寸間有

通水梁闊二分深一寸
三分池各置浮木三本

三矢比名置以布不
間狹微小於比箱厚

三分上建立齒高八
分闊一寸七分厚一

分槽不轉為閘脚高
下與艮等以水主之

下與眼等以水注之
三池浮木齊起眇目

視之三齒齊平則為

天下準一畧文一覽

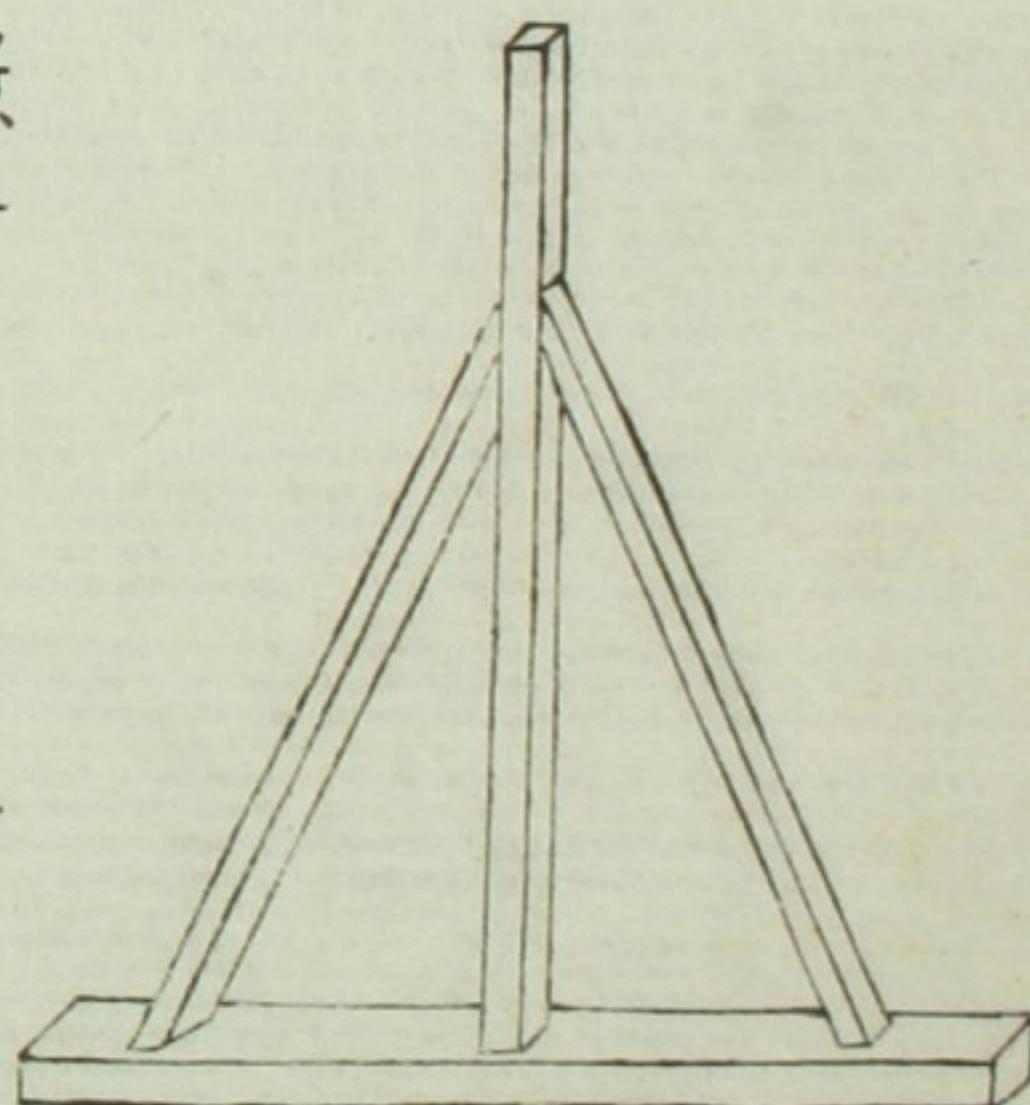
本邦より用ひの有る所故に國と略し準ハ老サ一
丈或ハ一丈三尺余りあり宜と用大サニすよ
みすをくり亟^{ハリ}削て上よ海を剝摸^{ハシマ}すて水を
入^{ハシマ}すとまづ有け放^{ハシマ}よ又水りりとまづ

サゲズミ

繫 臬 並 同 和名 羨豆波 加利 周禮曰 所以辨
方 正位 注云 匠人以繩懸於繫上 然後從旁

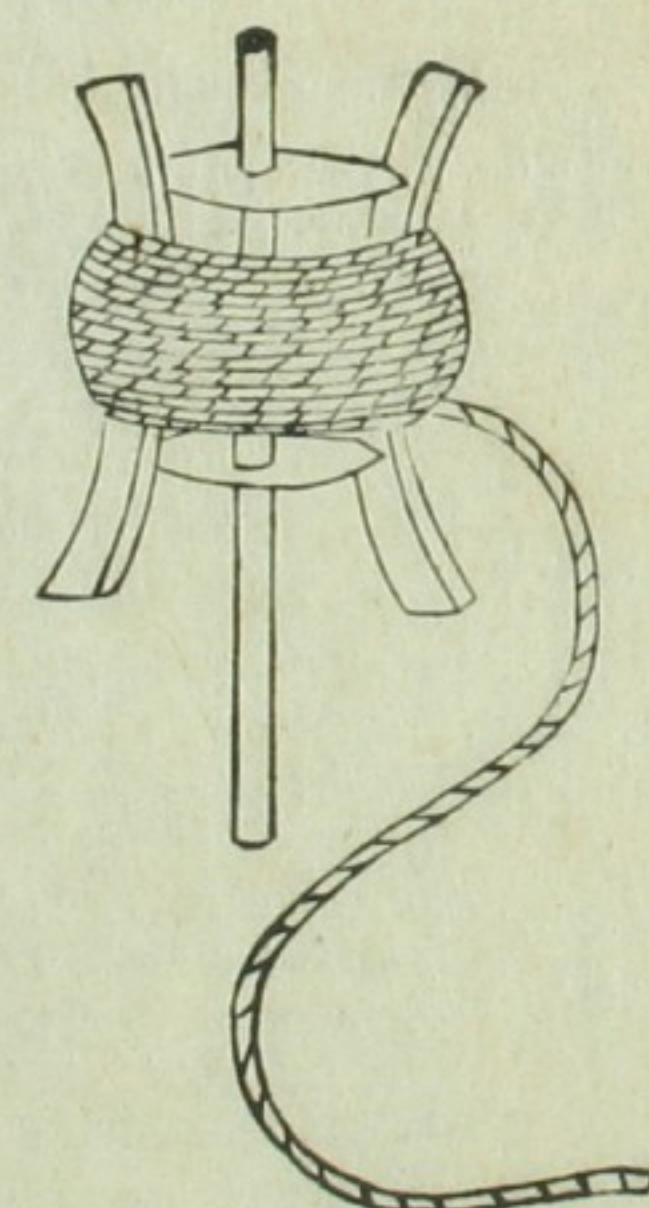
望縣即知地之高下而平之也即平得地欲正其東西南北先於中置一繫以正之恐其繫下不正準ハ横と平ふ者無準、縱と直ふ者無直

あら
足りのふかけ水えりかひかりもあら
後漢



繩

尚書曰惟木從繩則正東京賦曰周公初基其繩則直毛詩云其繩則直和名類聚小準繩漢語抄小曰和名義豆波加利準繩と一物ともハ准也准も繩もミケルカリナリ和名抄又別は繩行り一名索和名奈波ともハ物結縊繩也叢國彙すもつ下ともハ准也すつ下のいとくとも一堵補の繩と引く下ともク高



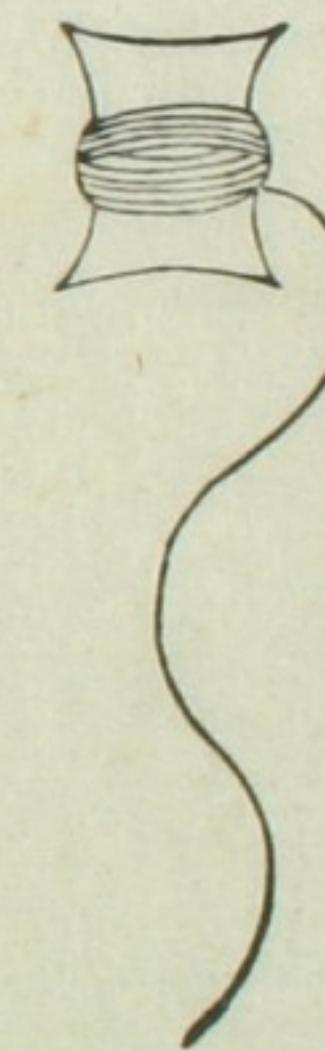
ともハ是也武備志曰亦以白繩計其尺寸則高下丈尺分子可知謂之水平和僕称ともに同句繩と云又水繩と云

繩墨

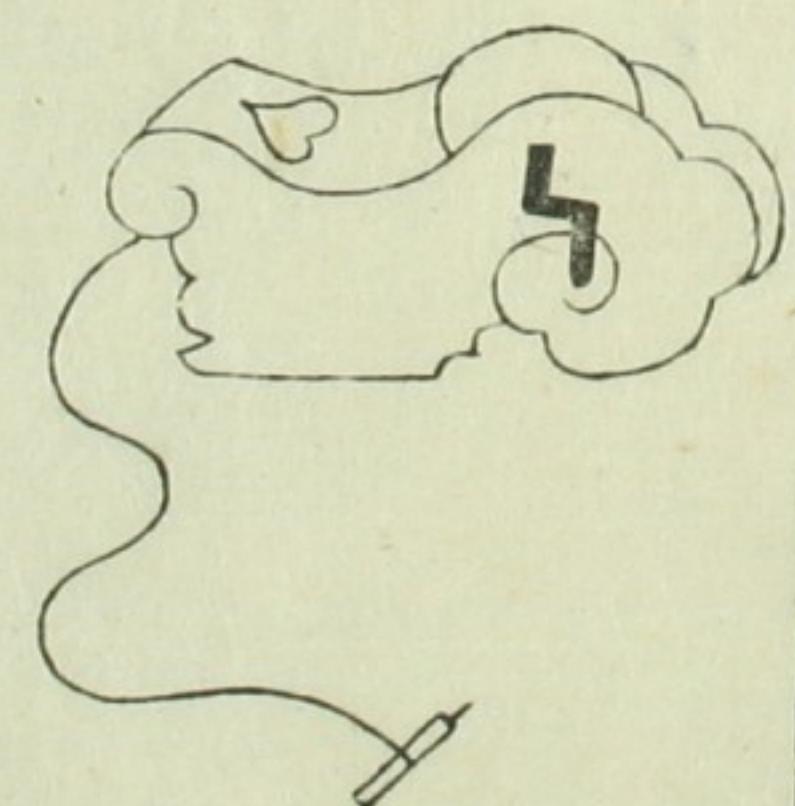
涅槃經曰端直不曲喻如繩墨孟子曰大匠

不為拙工改廢繩墨和名抄曰和名須義奈波素問奇垣篇云匠人不能繩尺寸而意短長廢繩墨而起平水不能置規而為員去矩為方といつり又墨繩線卿談木線正音頑繩升庵集曰古之匠人用赭繩即今之墨斗也是又墨斗の系うべ

或人曰繩墨木工所用器以墨絲彈畫者也
いへり今墨斗の系スミツボ云万系スミツボよ大神等船舳
尔御手サマハキ掛豆墨繩袁ヨリマとよやり

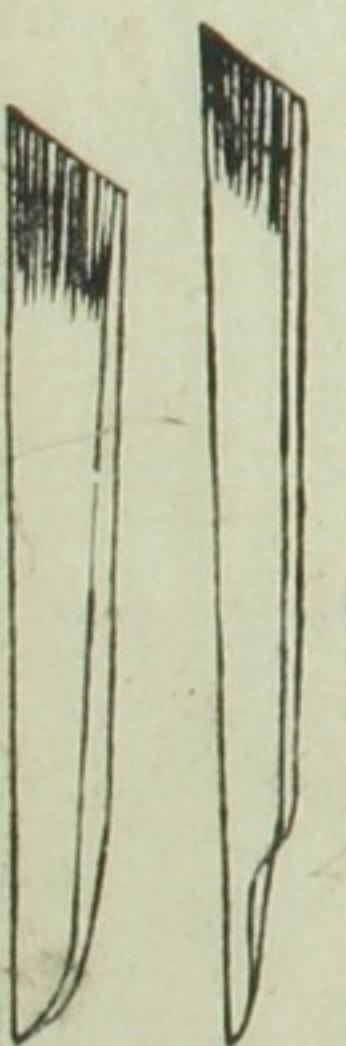


かぬくにねハおりて斐シのすす繩モロコ一筋スジ人九
墨斗スミツボ和名抄スミツボ云順美都保墨廬同正音節用蒙圖彙墨
斗ツボ或曰穿究ツボ貯墨令絲潛ツボ滲於究中也其所
造本以桑カヤウ為上擇次ツボ之ツボいへり墨スミと呼スミれと壺ツボ
又ツボの目ツボと云車ツボとまツボとよと捨ツボと云相纏ツボ
そ此ツボ糸の端ツボ指錐サレオリあり乞ツボとからツボと云



墨惣スミサン

和名抄云以箋ツボ為筆ツボ和名須美佐之周報王時
史臣公檀造ツボ也時人以竹惣ツボ畫文字ツボ今工匠墨
惣是也惣復並ツボ又復墨字彙墨復ツボ初学字會
竹復ツボ木箭正音木授ツボ卿談墨筆ツボ幼學須知並ツボ今
墨指スミサレとす



間竿 ミサホ 合類節用云定尺步器武備志云度竿ミタケ者蒙

圖彙小かみノリと別に俗ニ杖と云間杖又ニ
尺杖と云一間杖二間杖皆す尺を准て定ム也每法
尋杖と云ハヌ尺杖也

定木 テウキ 短杖也長ニ尺三尺之者幅廣き板を削小用也
ねぢれとスラガ捻定木と云定尺ノリに用リを用

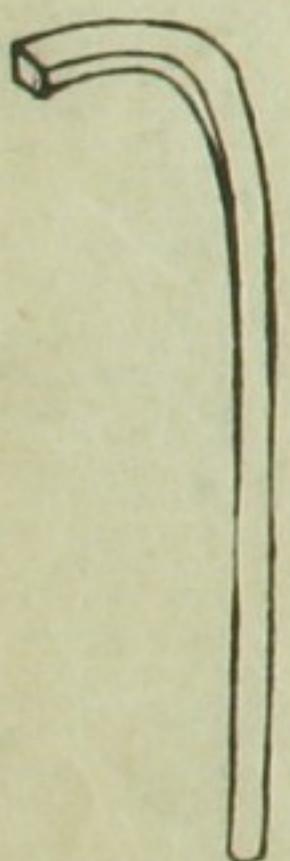
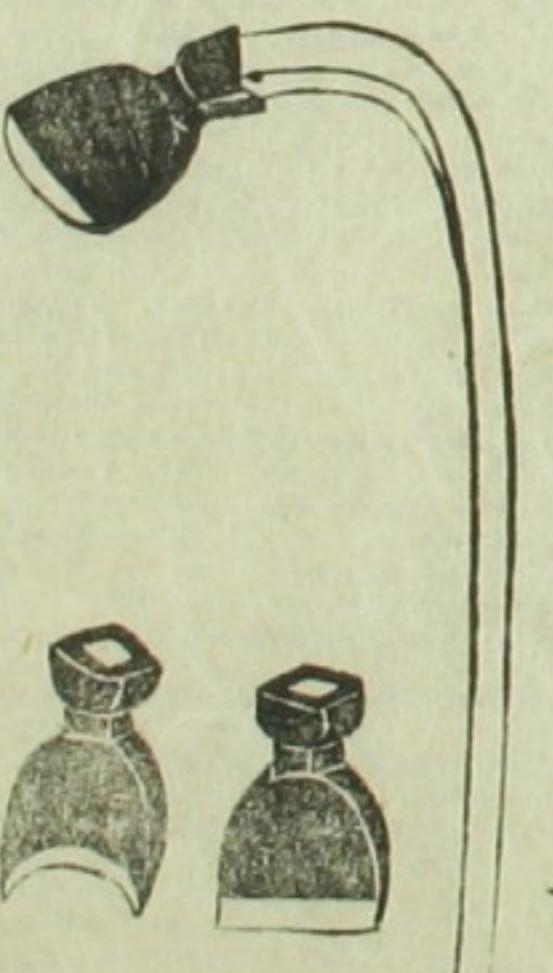
定木と云

五尺	四尺	三尺	二尺
----	----	----	----

鉤 テラ 和名類聚釋名云鉤所以平減斧迹也斬回
和名天乎乃又匠斧ロウフ至稱物錄合類節用手斧ハサウエ古語
手鎚下學集並小回兩刃モロハカタハ又有丸鉤あり

鑿 ヒツ 音穹斧空受柄之處
鈎コブリ 同今俗ニ鉤カギと云

櫛 コブリ 唐音曰鉤柄和名天乎乃能江字彙云枝上曲一曰
斬斤柄今俗ニ鉤カギと云



鋸

和名抄唐韻云鋸平木器也釋名曰釗有高下之

跡鋸以此平其上也和名賀奈俗云也里賀牛奈節用小佐牛迦牛奈と後せり下字柔鍬とくり和名抄云曰辨色立成用曲刀二字新撰萬葉用鉋字今案鉋字出所未詳云云或曰鋸有大棹中棹止久利裏白等數種並尖鋒形如槍又似短矛と後せり白會小鍬平木鐵器合類節用云やうんみとすハ兆ハ鉋の下にあら

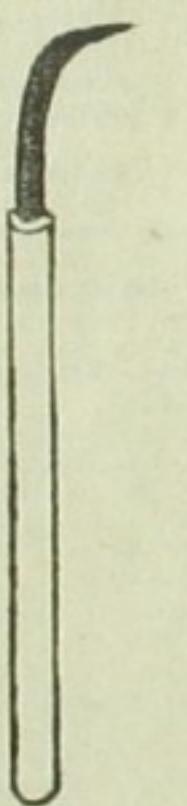
万葉 美絶りてち前のうりけに本乃あらソラオキテルアホ

曲鋸

或曰其刃如鉤針曲佛工及彫工用之今云奈未曾

利又鉸の注よ鋸之屬似前鋸而小曲剖故俗呼曰生

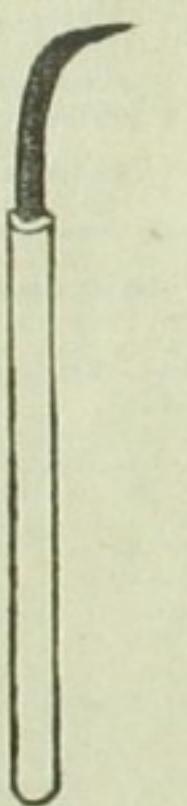
剖又名鉤鋸といつてもかまそりの後よハよハ鉸の字かまそりともうハ鉸也鉸のアヨアヨ



鉋

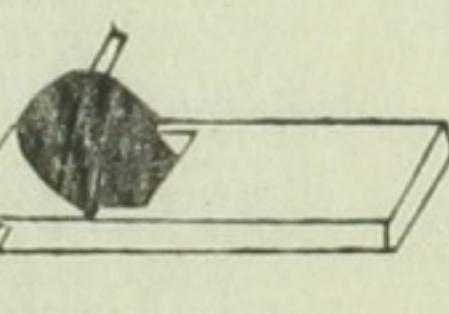
羊カニナ

宝彙曰正木器也刨削同正字通曰鐵刃狀如鑿銜木匡中不令轉動木匡有孔旁兩小柄以手反覆推之木片從孔出用捷干鑿又通作刨俗作鑿天工閑物曰推鉋磨礪嵌銅寸鐵露刃斜出木口之面所以平木古名曰準巨者卧準露刃持木抽削名曰卧準圓桶家使之尋常用者橫木為兩翅手執前推とスベアリ鑿ハ鐵也臥準ハ鑿と臺が嵌て下よシて本とおもく削



今正直と云者二種捕家の用工匠の具ハシハ推刀敵
 刀如学 鉋子呂字菱鉋平木器並小同或曰鉋俗云豆木加牟
 奈古者唯用槍鋒凡百年余以来始用突鋒二物狀異初相
 似矣比槍鋒甚捷且精密今俗用鉋字為突鋒別之其制以
 檀木長六七寸狀如硯而穿細溝孔斜嵌平刀推以削木其
 制不一此正字通天工用物云外の鉋也あくまよ
 別之其制ども者を櫛ねぐら又突鋒ども突の字其
 利すとふとも鋒とすれ槍鋒のれど古まくかとよめ
 るつきえみすり百年以來用ひてつきえみすり鉋を天工
 用物と呼んであり推すと云ふ字通より以及處とこれ
 と推す云今工匠の用私の推鉋也 ト邦に鉋産摩鹿小

始て後うう今はもあふあ逃げて用其餘國の鉋あ逃げて
 か



是產州より用ひ鉋
天工用物正字通

載さる所の者也

鹿鉋中鉋上鉋

アラカナ 鹿鉋ハ所の深板のねと前有其節の
 孔口度ヒロく約アキ二分八厘中鉋ハ其上と
 刃口大ヒロ一約二分八厘上鉋ハ又二寸と前有度乃に
 髮毛のこゝく約二分八厘又君鉋と云鉋刀の幅一寸二
 分一寸四分一寸六分一寸八分二寸の高常也其秀

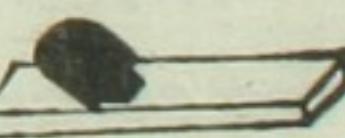
エヌ如てハ
守写の
名と用



短臺ミジカダイ 鋸刀を崩り木と接する心臺と云常の譽
の長ササフコトノ中挽上挽ニ用



面取メシトリ 短小者有挽の幅六七分
一寸小切面をどう用者也

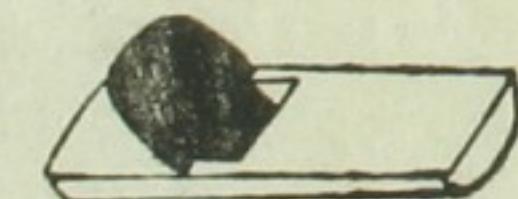
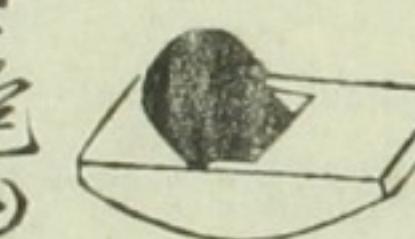


丸鉋マルカツ 或曰圓鉋有三種削秋棒者刃曲於外圓也掘削圓溝者
刃曲於外圓也外丸鉋ハ居費麻斗小用内丸鉋ハ高

探丸鉋
ホタル用



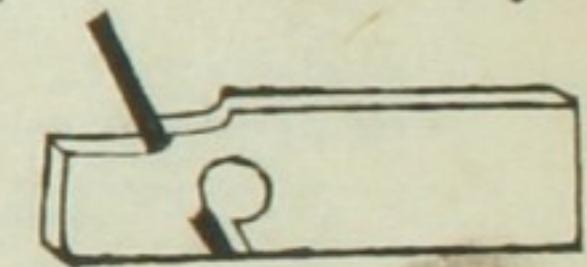
反臺ソリタイ 合類節用曲鉋ノクンミテ後セリ及彥ニムハ
短臺ニ及リトナムアラウクンマテリ



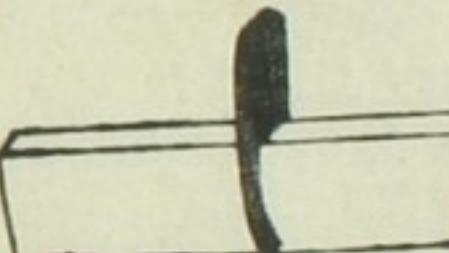
鈍丸タキマル カー丸き挽史
みま丸とくよ

溝鉋ソツカツ 天工用物又曰梓人為細功者有起線鉋及潤
二分許ハカリ みそんみと削或曰掘削戸國者
二品其削底者名底鉋其削側者名脇鉋ワキ とい
ア二種工匠用て溝道具云根鉋及左右巧り底
鉋幅四分五分六分の者常ニ直用而繁廣ニ
分三分の者巧り毛起線鉋と云ヘ梓人の器

かきくくに

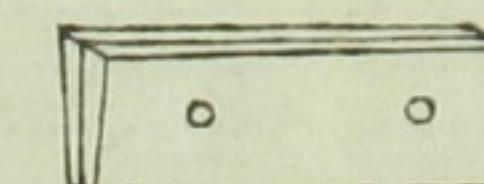
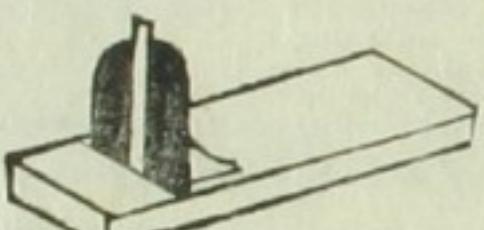


ヒラクラ 宝板芳板と別ヌフクラもまとも袋など
カクイー乞ヌ用者候也と向一者こそ辨
失フ者也樋袋カクイー乞又左右あり



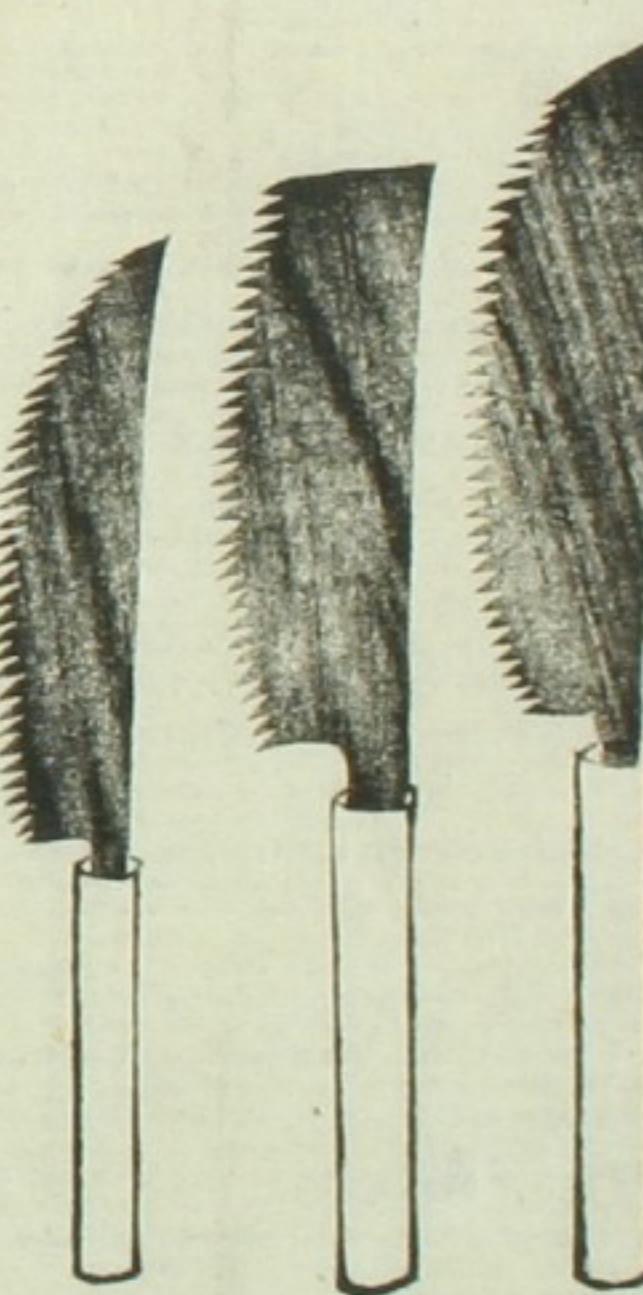
蝦鉗 天工用物云刮本使極光者名トト木之上御
十餘小刀如蝦鉗之足と不そフ其刮いよごん
にいとよ用云

臺直臺定本 塗車一ハ鉗と立ヌ嵌て鉗の臺と也此
高基定本ハ檜の木と用く仰り椎槌
の意と座すに用ひ者



鋸 和名類聚四聲字苑云似刀有齒者也古史考曰斬
鋸鑿皆孟莊子始造也和名能保岐利下學集
蒙圖彙能古岐利今云亦古保通音ナリ緒數種
ニ大小齒の相違コモク名前と異ナリ其形刀のと
くて齒巧者と云ハ鋸夫者たナリ舟
工具と用今先切と云く頃方ナリ者其工は用
近ハスノツク放ヌ鋸切ト云

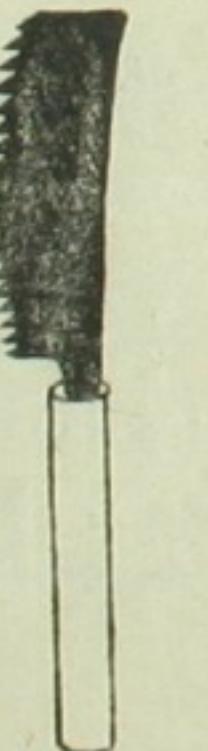
大鋸中鋸小鋸 大鋸おうじま鋸ハ極取木挽の具い
中ハニス三守小ハニス一す大中小歯の違ありセヌ
切锯也他邦ノミ木口切シム



摺鋸 スリクキリ 頭夾如本兼者、船造木工用シといア是
そりのこきりのことをすすりヘーフ乃
張よして大中小あり本の合目を摺食也



挽割鋸 カハリ 今か賀利と云按ニ其歯鉤鑓のこり一枚ニ
と云うノ一ノ彎状引刻也ホヌ用小とわく
かくりとも



細齒鋸 モドキ 蒼居筆記曰接工用シ一ノノふくらと強せ
モ候りときどき木挽切の歯よりか一木をす
かすきたり



挽切 ヒキキリ 或曰有八力す齒細者俗名引切といひア引
切より齒細小うり者と略名切と似竹と切よと
弦ツルをうけしる者竹張シラマツど云



引廻 ヒキアゲ 或曰比木未波之長七八寸幅六分許高以
可切竹といひア是引まつて丸きねを引
まり切とんじて根うじ竹と切き者又あくび縫
令の蓋フタれ手ハンド者と圓み引廻ヒラマツ亦或ハ唐草
カラクサ
形物透スカレよ用



鑪

字彙曰摩錯之器和名抄曰鑪子四聲字苑云鑪所以利

鋸齒也又作鋐漢語故又曰夜須利

錯子品字彙鑪蒙圖彙鎔合類節用鐵鑪並又回天工用物

丸鐵鑪純鋼為之といひ鋸の齒又直して大小を



茅葉鎌

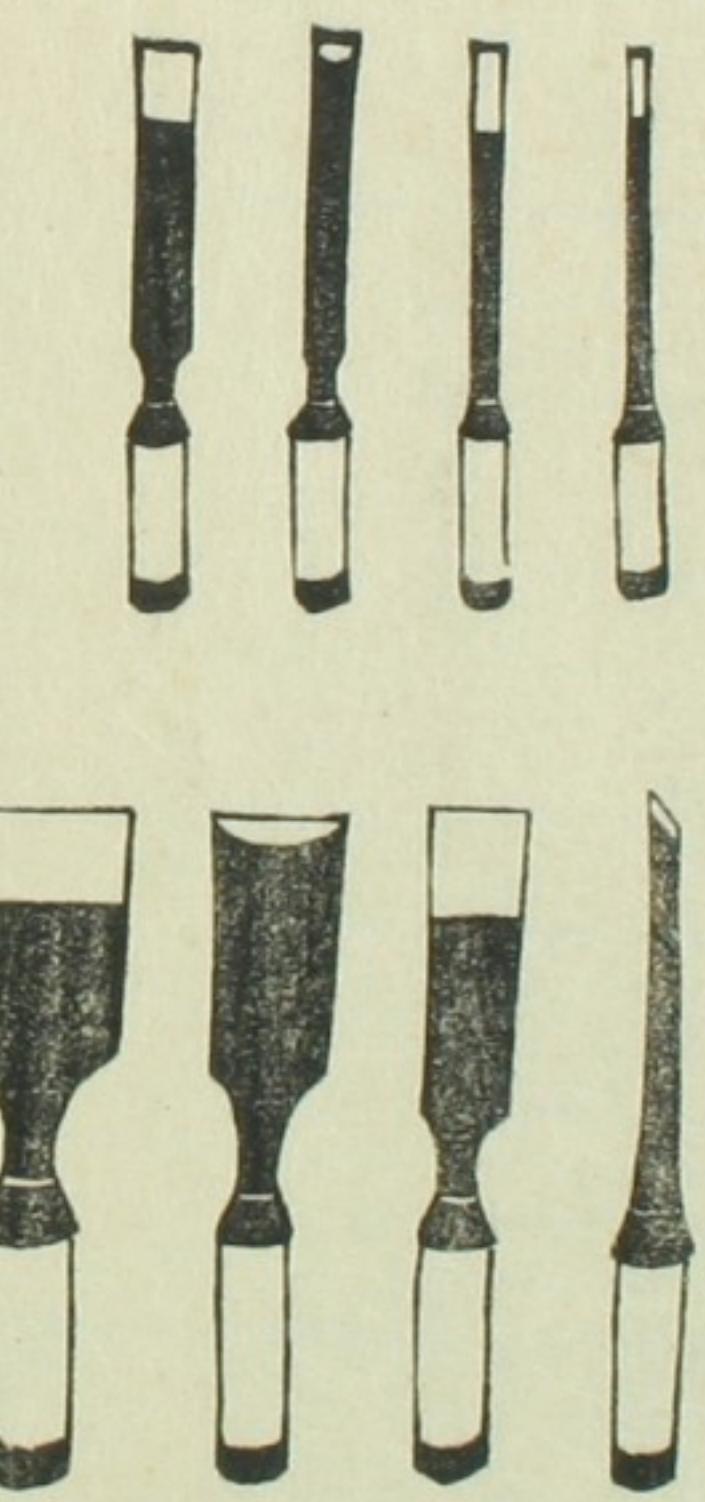
天工用物曰鎌用鋸齒用之一とアヘアリ和名

日波知計尉繚子曰鋸齒亦勝吳都賦ふ鋸牙
といひア鋸痕のこきりのわと刻に今皆目といひア齒を
利すと目立と云齒を左右へ展ヒラキするをありと
云はる鑪の頭カレラハナリ細ハカナて折ハブや
茅葉鑪なり細ハカナて折ハブや
もしけぬ不強ハブふふ佐ハサミ



鑿

所以穿木器也。鑿、鏽、鋸、互同。又鑿子ノミ、談、剗、子ノミ。正音和名抄能羨字彙云：銑、鏡ハ小鑿也。鋸同鎚ハ鎗鎚也。大鑿平ル、木者とストリ。其品數種あり。三厘五厘分半一分二分三分四分五分六分八分一寸也。七分九分トム者希也。一寸二分と小廣鑿トム一寸六分一寸八分二寸是と廣鑿トム。平鑿ヒラノミと廣抜ヒロセのす分也。而名とし。又厚薄あり。



突鑿

或曰有佑須鑿柄長近尺リ。とて柄より鑿の
穂ホ者。船工用テツキ。鑿ツキとて船工老抱オモリ。又用



無刃鑿

純鑿ツキ。同はくのと別に其刃鈍或ハ堅カタク。而
刻カタハ。而如鋸カタツク。又片鑿ツキ。刀相應ソクヨウ。大小あり。



鐸鑿

至波能美船工家用ツビノミ。とて行穴アヒナを穿ツキ者。又
刃ハシ。而如鋸カタツク。又片鑿ツキ。刀相應ソクヨウ。大小あり。

丸



打拔

ウチヌキ ピバミ
之を蟬鑿つて穴を穿其孔をお幾穴とす

直通



鋸

ルミ
字彙曰曲頭鑿和名抜辨色立成云曲刀鑿也和名加布良恵利或曰字彙謂之曲頭鑿蓋鑿之數皆以粗敲穿而曲頭何得能入耶今有佛工穿鼻穴之刀乃鋸之屬似前鋸而頭小曲割故俗呼曰生割又名鉤鋸此乃鋸也其形穿之功謂鑿亦不遠矣以圓穿



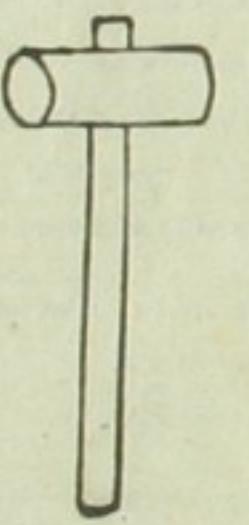
謂無刃亦適理矣といひ是和名抜小曲刀と云之以て云り曲刀と云まほりと云ハかへハ利よ近し字彙の曲頭と云まほりと云ハ大約公に遠あり生割ハ云ふ又曲を鋸ハ頭の刃丸く曲高うて圓穴を穿あ也今麻留能美と云豆保能美と云別か布良恵利也又彙鑿と云小圓如列竹以可圓穿と云この彙曲云ひよりすや字彙の曲頭鑿と云とて自非と云せら張の医きたり又捲鑿蒙圖彙鑿眉公難字圖鑿用難字並木同名物六帖つきとすハ班也又裏丸の鑿と云

櫛 ノミツカ 和名抄通俗文云櫛、鑿柄也。和名能美乃に又の「つ
うどみ」と下の「歎」の「歎」もととがつて「うどみ」下と歎とも

槌 ツチ 蒙國彙本槌とす。合數節用椎。和名抄摹文云
方椎謂之槌。漢張良傳曰：「敵伊都遲」イツク書「
格揆」と用。或曰：「槌」椎也。有數種。格揆一名。方椎
木工每用之。其橫木曰持。といひ。和名抄の後かで
ハ格揆ハさひつち工匠のつらよハあくまで蒙國彙に
こつらと訓にあれば今云歎也。かつて人びの聲
大ふひつきゝとさひつち工たまとうより横

槌のつらよ柄ともくにすする有よて 横槌ヨコツチ
柄もくくばかしもくちハ柄長く民槌ラミカ 横木を
者ふりび本工の槌ツチと云せり。ハ櫛ツカりといふへー一字彙
小持ハ槌の模本ヨコキ とえり模本ハシセツチ ある。槌也。椎也。番匠槌

ト云



鐵槌

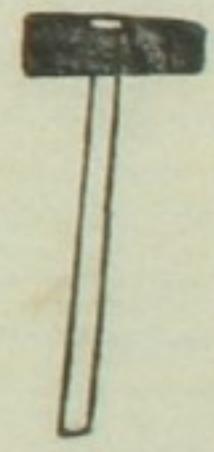
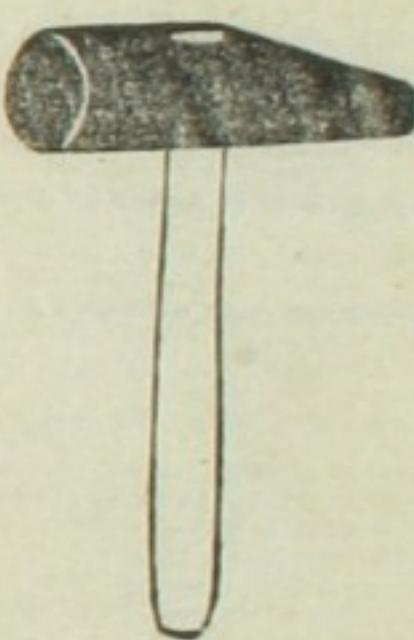
カナツチ

和名抄廣雅曰：鑄、鐵槌也。和名加奈都知

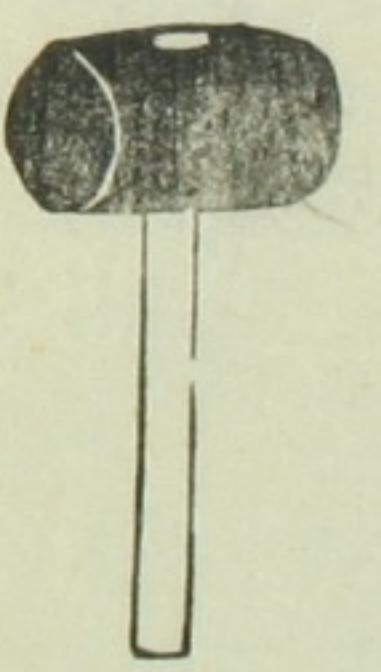
テラツイ

眉公雜字鐵槌。本艸不殊推。漢張良傳為鐵推
二十斤。と云へり。今用所大中小のあり。重サ
百目三百目以上を大とひ。百目百五十目を中とひ

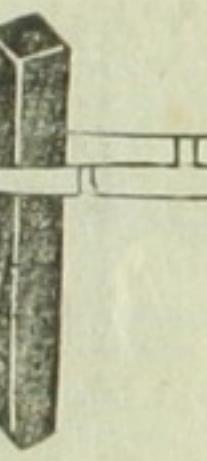
其小ちる者十丈以下小石也



源翁ゲンオウ 天工閑物小攻コウセキツイ 石推イシタケ 云或曰大如サン 椅枕イセキ 以可テ 崩破サイハス 鐵石イシタケ 齊人謂大椎オオシメ 曰錐者トシガタ 是乎蓋レカ 昔有レバ 謩僧源翁者ケンヨウヨウマタタケ 偶行野州那須野ナスノヒテワル 叱破殺生石セツハセウセキ 而後俗稱破石罐カツシマタケ 曰源翁ゲンオウ と名之トニム 舟方ボウカ 大釘タケ 云打者タツガタ 也

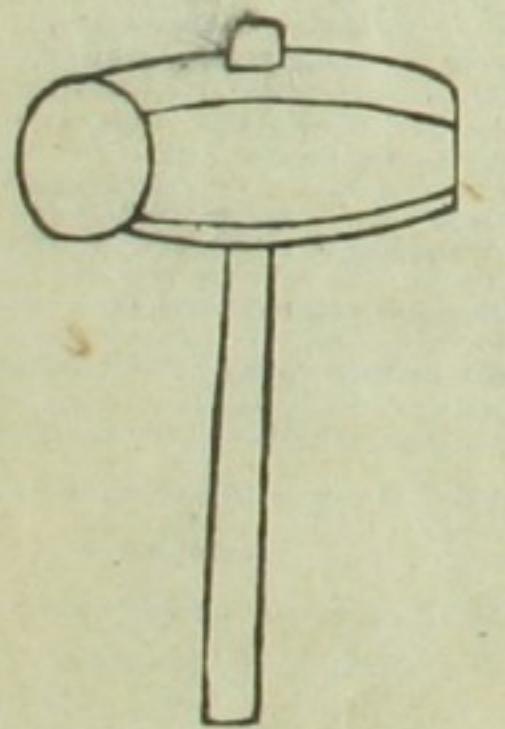


釘タケ トハ固也釘の既ヨリ 非鐵椎イシタケ にてトシテ 坚固タケル 也又釘屈カク 一と云大小あり大者ハ 木竹モクチ なども木柄ハンドル にて源翁ゲンオウ 云打者タツガタ 也



據擊カタヤ 或曰篆文云齊人以大椎タケ 為據擊タケキ ト益シテ 樹ツウ 久比ヒビ 以可レ 擊タケ 我也合類節用據又塙椎タケ トシテ 按字彙曰據打塊椎タケ 云々摩田器也畠打ハシタケ 云用者農具也

據擊ハシタケ 和名阿比アビ
都遲タケ 俗云加計夜カギナ



錐

錐子 雜字錦仔天開物並云毛詩云童子佩錐和名抄

岐利或曰錐銳也如鑽今有圓錐方錐之異合類節用無稜者曰圓錐良安曰如絹紙柔物所以通孔也蒙圓彙都岐度保之と訓に工匠の用圓錐と各別也

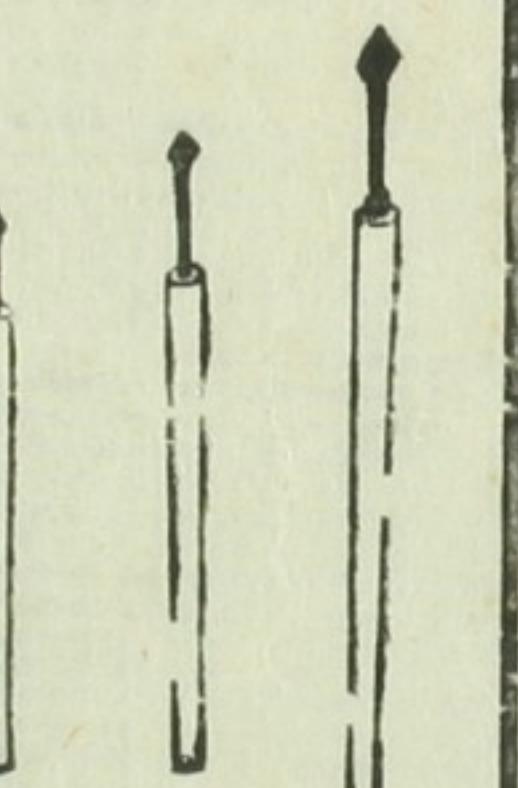
方錐

合類節用有稜者曰方錐と云ハ狀也有角者也稜ハ一にて三ツの角と云角ハ四方の角之和名與保字岐利



鑽

天工開物曰凡鑽治鐵為之字彙曰穿物之錐或曰鑽即三稜錐也鋒三稜而穿釘穴者蒙圓彙度保之岐利今用而大通中通小通と云丸小のめきりと稱ひ



壺錐

或云半圓如削竹以明圓穴者是と豆保岐利と云又丸錐と存大小あり

缺

和名抄曰毛遲或曰缺大鑽也柄橫於頭如丁子様先以三稜錐次敲入之以柄絞捩といつて船工大釘の穴を穿みしん鑽鑿とへて後よ用

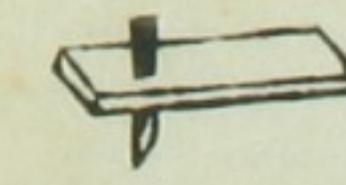
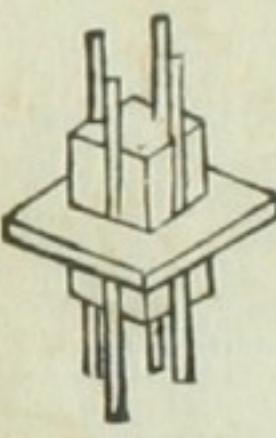


小刀 武備志日本考云有小裁紙設機刀合類節用
又削刀又作錐刀和名古加太奈大中小あり其刃
細者操小刀云又切出小刀あり

本
アハラナラホシコケニヨリマヒヨリツクレヌカミテアハ
アハラナラホシコケニヨリマヒヨリツクレヌカミテアハ



界引 卦引にて厚と窪者或ハ枘ノ穴と彫小用又薄
板を刻又小刀の鋒と崩たる有刻卦引云々又
く戸工用工匠又用ノムあり

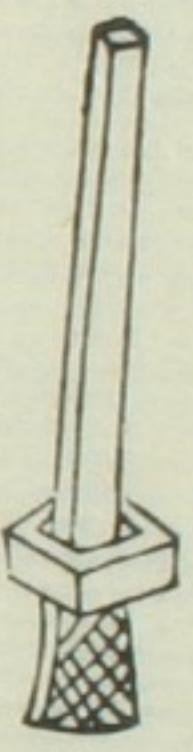


口引 又鳥口云竹と用て一尺半小切ニ四寸餘の方
ニツル刻先と尖一けつる余あと按て多の嘴クモリのあ
ト又あうとも仰一方へ墨と付く口と引刻目と食
者也



千斤 クギヌキ
頭書纂要曰起舊釘之器又幼學須知曰千斤
秤用以去木上鐵釘不起者或曰和名久岐奴木
俗云万力方寸半許鐵器隨透穴別長尺鐵挺

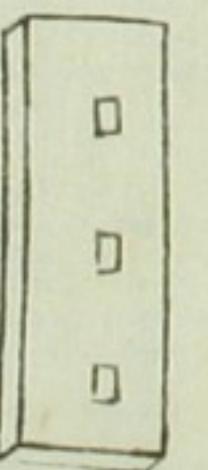
大應サ究テ歲テ之ノ如アヌ鐸ト而與挺之間ニ挾ミ舊釘ヲ挺起ス之ヲ
千斤万力名共取強剛ク之ノ義ニ矣シ一ツ種如アヌ鉄ト而肥其頭ヲ
圓カク以挾ミ舊釘ヲ拔ク之ヲ



切拔キリスキ 其形釘トメのノとくしてノみと付大釘と拔きスルハ
者又中心ノ付鑿ハのノとハ柄ハと付て用



目打メウチ 或ハ面メウチ打タヂ舟釘ヲと接スルへき高鐵ヲと以スル仰ハ之ヲ
根ホツ五六寸オ厚サ三四分鐵板ノ中ノ小穴ヲ打スル行ハ接スル行ハの根ヲ損ゼ
さムためより万力鉄切拔ハ釘ノ比ヨリ枝ヲ是ガコロ尾ヲ方ヲより接スル高タヂ來カニ制ス

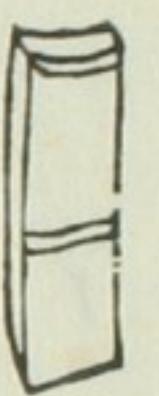


夫度古ヤドコ

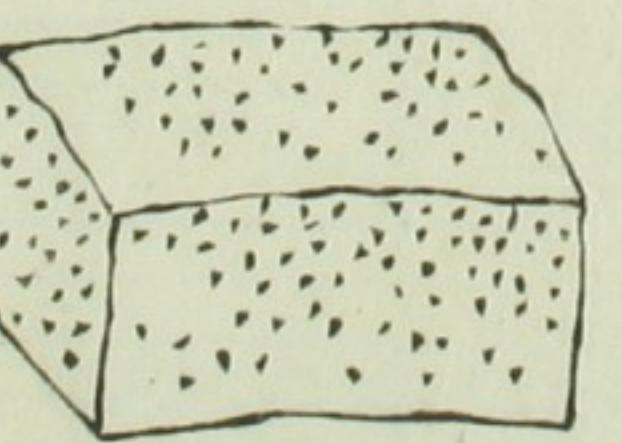
字未考舟の漏フサグと寒フサグの器始トサムとすふアハセ板ヲの合アハセ
月ヅラツ有鐵ヲと仰ハ鑿スル之ヲ用ハ切刃ヲ此ハ者ヲ鉛鑿ヲかーのモと別ハ
之ヲ天工用物ヲ回丸船板合隙縫ニ白麻削繕ヲ為フ筋鉛鑿ヲ入レ然後篩過細木灰ヲ和ミ桐油ヲ脊ハ板ヲ

成團調船をとアヘテ和漢其名ハラシレトモツハ
ハ回々フモト純鑿と用てやとこもア也

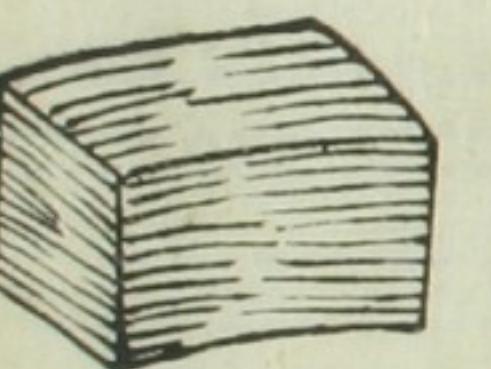
箬打竹 ノミウチタチ 舟の箬打の器竹とみて竹をそ竹をそ
岡基箬打 カイキノミウチ 機撥と云ニ味線のちられとスミ又小を
細と閑箬打と云



礪 ノミ 和名放四聲字花曰礪磨、鍊石也。今案惣名也。
其品數種有工匠用所の者三種あり

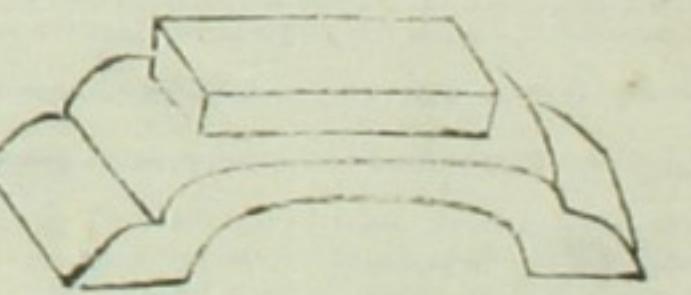
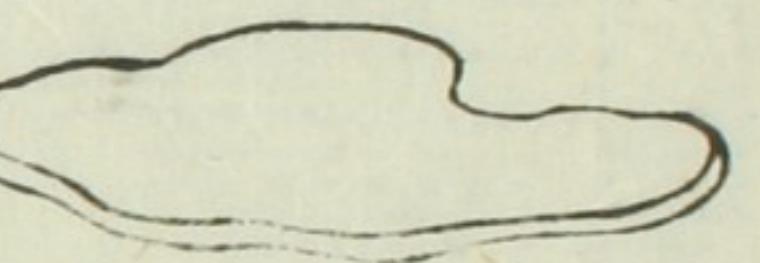


礪 ノミ 和名抄兼名苑云礪一名礪
鹿礪石也 和名阿良度



青礪 ノミ 和名抄唐韻云磁磧、青礪石也。和名阿乎度。今俗呼て無目礪と云。色青者尤可也。礪說文礪石。赤色とアヘテアリ。布邦肥アドリサリ。天草礪八色黃白伊豫より出アリ。礪石も色よ似アリ。

砥アヤド 和名板兼名死云砥一名礪細礪石也和名未度合類節用黃砥砥硎並小同今合砥之云



和漢船用集卷第十二 終

明和三丙戌年三月刺成
文政十丁亥年六月嗣行

江戸書林 須原屋茂兵衛
藤 屋彌兵衛
大坂書林 藤 屋九兵衛
藤 屋徳兵衛

